

知識度チェック 質問④〇×？で答えて「例①？②？…」

①「排卵は、いつも月経中におこる」(〇×？)の正答率は大学生女子で56.6%、同男子で22.5%

②「精液がたまりすぎると、身体に悪い影響がある」(〇×？)同順で11.7%、40.2%

③「ピル(経口避妊薬)の避妊成功率は、きわめて高い」(〇×？)同順で41.8%、39.9%。

④「性感染症にかかると、かならず自覚症状が出る」(〇×？)同順で67.1%、59.6%

⑤「あなたは、次のことがらについて、どこから情報を得ていますか」→「(a)性交(セックス)について(複数回答)」

記述で答えて ⑤学校・友人・ネットなど

「学校(先生、授業や教科書)」からが同順で25.1%、23.3%

最多は「友人や先輩」からで同順で49.9%、61.0%

「インターネットやアプリ、SNSなど」が同順で43.8%、49.8%

男女差「アダルト動画(DVDやネットなど)」からが同順で14.1%、51.1%

日本性教育協会「青少年の性行動が国の中学生・高校生・大学生に関する第8回調査報告」(2018年)より

*「はどめ規定」にみる限定「性交は取り扱えない」と思い込み、文科省初等中等教育局長2020年国会答弁「歯止め規定そのものは、決して教えるべき事項ではなくて、全ての子供に共通に指導すべき事項ではない、ただし、学校において必要があると判断する場合に指導したり、あるいは個々の生徒に対応して教えるということではできません。」

* 大規模中学校の性教育平均時間数は、2017年調査で、1年生 3.48、2年生1.97、3年生が3.14時間、3年間合計で8.62時間。

* 教員養成課程での課題、約500の教員養成系大学調査、回収率48.1%、233大学中で103大学・45%しか「性教育関連科目がある」。しかもそのうちで「必修」及び「専攻必修」は4割にとどまる。

(科学研究費・課題番号16H03768報告書、以下科研報告)

①「包括的性教育」とは、セクシュアリティの認知的、感情的、身体的、社会的側面について、総合的に深く学ぶことで、主に②③の観点を重視している

結婚までセックスしないことのみ「禁欲主義(abstinence only)」教育に対抗する教育

② 人権とジェンダー平等・多様性尊重が基盤で、科学的に正確に、幼児期から継続的に行う

③ 自他の尊厳と責任を育成し、ウェルビーイングな関係性を築く

・世界のスタンダード 子どもの権利委員会、女性差別撤廃委員会などから「包括的性教育の実施」を勧告
2023年 日本世論調査会でも「導入すべき」が64%

包括的性教育教育

国際セクシュアリティ教育ガイダンス(ユネスコ)より

包括的性教育の目的: 性の権利保障

「健康とウェルビーイング(幸福)、尊厳を実現することであり、尊重された社会的、性的関係を育てることであり、かれらの選択が自分自身と他者のウェルビーイング(幸福)にどのように影響するのかを考えることであり、そしてかれらの生涯を通じて、かれらの権利を守ることを理解しはげますことである」2020『ガイダンス』明石書店

『ガイドンス』『包括的性教育』の解説

「包括的セクシュアリティ教育は、セクシュアリティについて包括的で正確、科学的根拠に基づき、かつ、各年齢に適した情報を得る機会を提供する。これには、性と生殖の健康に関する問題、例えば、性と生殖に関する解剖学および生理学、前期思春期と月経、生殖、現代的避妊、妊娠および出産、HIVとAIDSを含む性感染症が含まれるが、これらに限定されるものではない。包括的セクシュアリティ教育は、一部の社会的および文化的文脈で難しいとされるトピックも含み、すべての学習者が知っておくべき重要なトピックの全範囲をカバーする。また包括的セクシュアリティ教育は、健康とウェルビーイング（幸福）のための分析的なものの見方やコミュニケーション、その他のライフスキルを向上させることにより、学習者のエンパワーメントをサポートする。それは例えば、セクシュアリティ、人権、健康的で尊敬し合う家族生活や対人関係、個人的かつ共有的な価値観、文化的・社会的規範、ジェンダー平等、反差別、性的行動、暴力とジェンダーを基にした暴力（GBV）、同意とからだの保全、児童・早期・強制婚（CEFM）や女性性器切除／切断（FGM/C）のような性的虐待や有害な慣習などに関連するものである。『包括的』とは一回限りの授業や介入ではなく、トピックの幅広さと深さ、および教育を通じて学習者に経年的に提供される内容も指す」 2020『ガイドンス・・・』明石書店

人権、多様性、ジェンダー平等が基盤の性教育効果

- ・初交年齢の遅延
- ・性交頻度の減少
- ・性的パートナー数の減少
- ・リスクの高い行為の減少
- ・コンドーム使用の増加
- ・避妊具使用の増加

国際セクシュアリティ教育ガイドンス(ユネスコ)より

・ジェンダーに公平な規範や自己効力感と自信を拡充する

・ジェンダー規範と暴力の影響への認識が高まった。

・暴力と差別を、予防抑制する。

・セクシュアリティ教育は、学校を基盤としたプログラムがコミュニティ的な要素によって保管されているときに最も強い影響がある。(学校・地域・家庭の共同)

・効果的なカリキュラムが実施されれば、若者の健康にとってポジティブな結果が得られる。一方、訓練が十分でないスタッフによる実施や、プログラムの変更(短くしたり一部をカットする)は、効果を低下しうる。学校先生信頼

国際セクシュアリティ教育ガイダンス(ユネスコ等)より

2018年 改訂版「ガイダンス」の基本的要素と構成 『包括的性教育』参考

- ①科学的で正確であること=事实现実真実にそくして、迷信や偏見を排除
- ②漸進的であること=スパイラル、らせん型 課題主義
- ③年齢成長にそくしていること=子どもの理解に柔軟に対応
- ④カリキュラムベースであること=教師がガイド
- ⑤包括的であること=広範囲で深い学び、時間や範囲を限定しない
- ⑥人権的アプローチに基づいていること=自他・社会の性の権利を保障
- ⑦ジェンダー平等を基盤にしていること=全ジェンダー平等の実現の必要性
- ⑧文化的関係と状況に適用させること=文化や社会的規範の改善
- ⑨変革的であること=ウェルビーイングな関係や社会への変容をもたらす
- ⑩健康的な選択のために必要なライフスキルを発達させること=問題や要求に対して、より健康的かつ効果的に対処できる

基本的スタンス「テーマ主義」より「課題主義」

「**テーマ主義**」とは、性教育カリキュラムでテーマ(生命誕生、からだの変化など)を学年別に配列し、各学年でどのテーマを授業で取り上げるかがカリキュラムの軸となっている。文部科学省・教育委員会は基本的にこの立場。学校現場でも同様。

「**課題主義**」とは、性教育カリキュラムを構想し実践する際に、課題とは何かを検討し、子どもや社会の現実即して、何をどのように授業で取り上げるかというスタンスです。子どもの発達要求や学習ニーズに依拠した性教育実践をすすめる考え方のことです。**実態とニーズを最優先する。**

日本の性教育:テーマ主義で実践を限定することで、課題の把握と子どもの知る権利優先にそくしていない。

性の健康権SRHRセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ新定義2018

- ① 自分の身体は自分のものであり、プライバシーや個人の自主性が尊重されること
- ② 自分の性的指向、ジェンダー自認、性表現を含めたセクシュアリティについて自由に定義できること
- ③ 性的な行動をとるかとならないか、とるなら、その時期を自分で決められること
- ④ 自由に性のパートナーを選べること
- ⑤ 性体験が安全で満ち足りたものであること
- ⑥ いつ、誰と、結婚するか、結婚しないかを選べること
- ⑦ 子どもを持つかどうか、持つとしたらいつ、どのように、何人の子どもを持つかを選べること
- ⑧ 上記に関して必要な情報、資源、サービス、支援を生涯にわたって得られ、これらに関していついかなる時も差別、強制、搾取、暴力を受けないこと

(IPPF国際家族計画連盟)